



令和7年度（2025年度） 道徳教育パワーアップ地区別研修会

研修Ⅰ 「演習Ⅰ『道徳科の授業づくり』」

目的 授業づくりの手順が分かる

演習の流れ

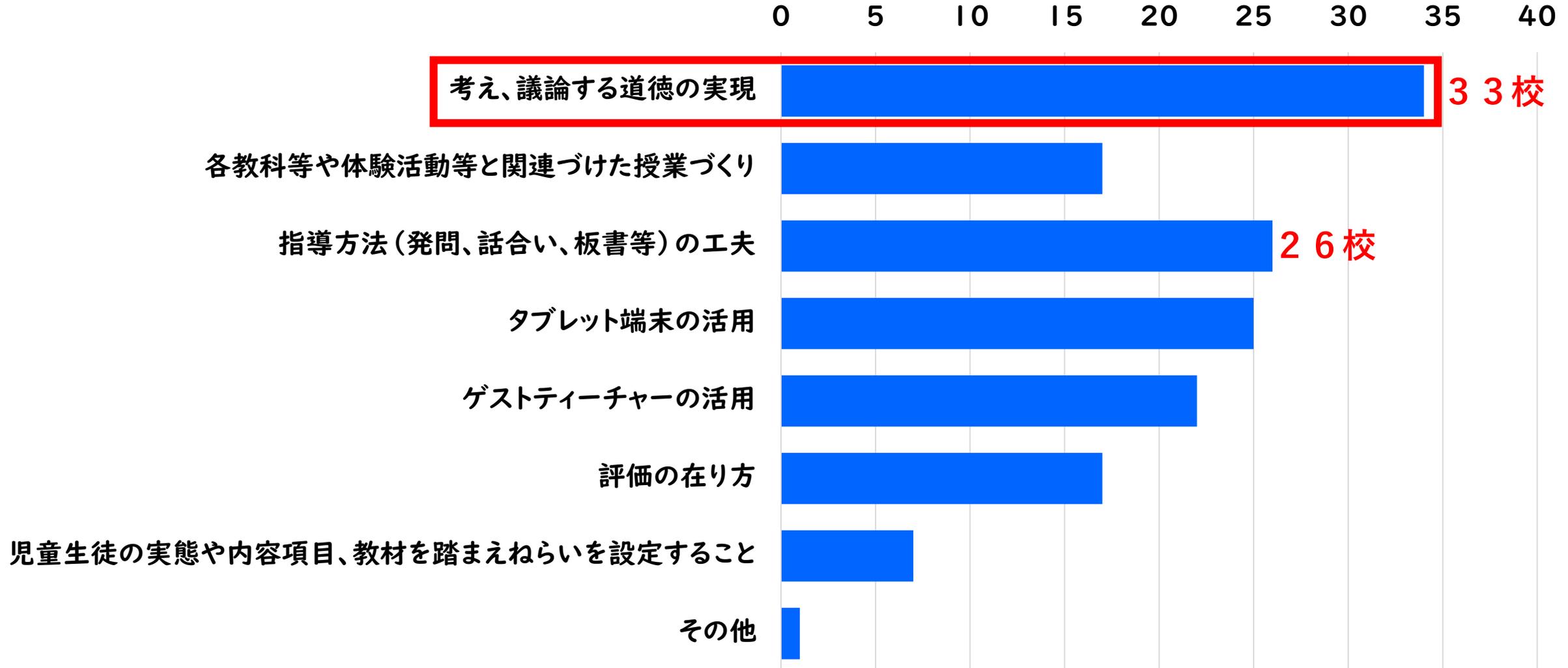
1 道徳科の授業で悩んでいること（5分）

2 道徳科授業力向上手引書をもとに授業づくりのポイントを説明（15分）

3 教材を使って中心発問づくりまでの演習（25分）

道徳科の授業づくりや授業における課題は何ですか？

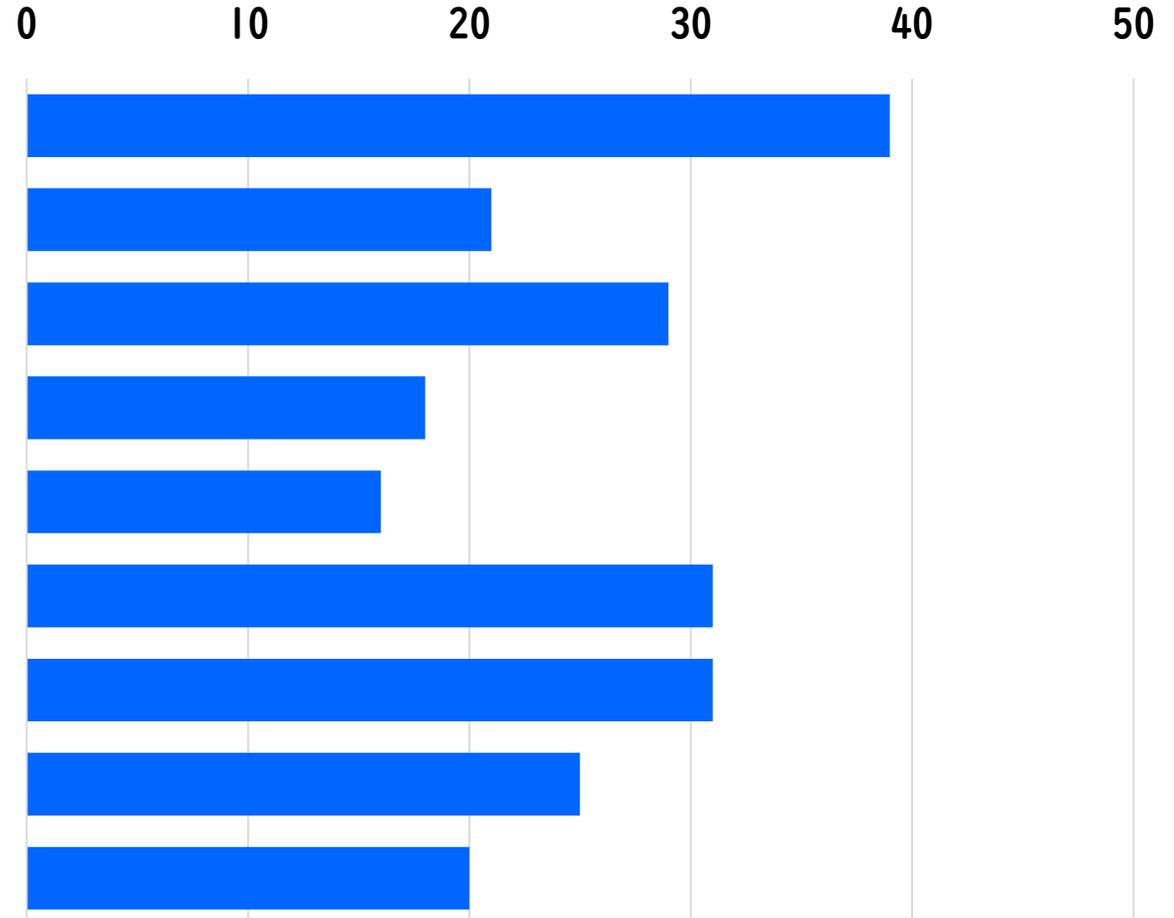
(校／44校中)



授業づくりに「道徳科授業力向上手引書」及び「リーフレット」を活用して、参考になった点を選んでください。

(校/44校中)

内容項目→児童生徒の実態→教材の活用の順で
学習指導要領 道徳編の内容項目の確認の仕方
導入の工夫例
書く活動の工夫例
表現活動の工夫例
話合いの工夫例
板書を生かす工夫例
ICTの活用例
道徳科の評価の進め方



- ・昨年度、校内研修等で活用……………28校 (+5)
- ・今年度、校内研修等で活用……………2校
- ・今年度、校内研修等で活用予定…34校

- 八代教育事務所HP
- ・授業づくりステップシートの活用……………30校
 - ・研修会のスライド活用……………26校

演習1「道徳科の授業づくり」

2 道徳科授業力向上手引書をもとに授業づくりのポイントを説明（15分）

来週の授業は・・・

学年：中学校2年生

教材：償い(学研p152～155)

内容項目：

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きること喜びを見いだすこと。



授業づくりは、何からはじめたらいいのだろう。





授業づくりは、何からはじめたらいいのだろう。

指導の意図が明確になっていく

内容項目
(道徳的価値)

児童生徒
の実態

教材の活用

①内容項目や道徳的価値の確認

②指導の要点等をもとにした児童生徒の実態把握

③教材の活用

上に示した道徳科のお団子は一番上の**内容項目**から食べていきましょう。

内容項目 → **児童生徒の実態** → **教材の活用**、この手順を大切にして道徳科の授業づくりを行いましょ。



1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

① 道徳的価値を確認する

学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）
の内容項目のページで道徳的価値を確認
しましょう。



人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きる喜びを見いだすこと。

内容項目

(小学校) [よりよく生きる喜び]

〔第5学年及び第6学年〕よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。

(1) 内容項目の概要

誰でも、自分に自信がもてなかったり、劣等感に悩んだり、誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。欠点や弱点がない人間はいない。ありのままの人間は、決して完全なものではない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。自分を律することができず、ついつい怠けてしまうことがある。してはいけないと知りつつ、意地悪なことをしてしまうこともある。自分の利益を最優先にして、他人の不利益を無視して行動してしまうこともある。人間の存在自体、「人間はひとくきの草にすぎない。自然の中で最も弱いものである。」というパスカルの言葉のとおり、風にそよぐ草のようにはかなく弱いものである。しかしながら、同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心をもっている。パスカルは、「だが、それは考える草である。」と続け、思考が人間の偉大さをつくると考えた。人間は、総体として弱さをもっているが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。時として様々な誘惑に負け、やすきに流れることもあるが、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。こうした苦しみに打ち勝って、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りをもつことができたとき、人間として生きる喜びに気付くことができる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になり得るのである。「気高く生きようとする心」とは、自己の良心に従って人間性に外れずに生きようとする心である。良心とは、自己の行為や性格の善悪を自覚し、善を行うことを命じ、悪を退けることを求める心の動きである。義務の観念と深く関わり、義務を遂行できなかつたとき深い後悔の念を抱き、義務を遂行でき他者との絆を守れたとき本来の自己を取り戻せたとして喜びを感じる。このことは、自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことができないう自己の強さであり、気高さである。人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく、言わば、表裏の関係ということになる。ここで言う人間として

の生きる喜びとは、自己満足ではなく、人間としての誇りや深い人間愛でもあり、崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びでもある。

(2) 指導の要点

小学校の段階では、高学年に、今回初めてこの内容項目が置かれた。そのため、近隣の小・中学校が連携協力し、発達の段階に応じた指導内容と方法について工夫を重ねることが必要である。自分を高め、身近な仲間とよい関係を築き、人間としての強さや気高さを身に付けて生きようとする項目であり、いじめの防止等にもつながる内容項目である。

中学校の段階では、入学して間もない時期には、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもつことを理解することができるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてずに、劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、うらやましく思ったりすることもある。学年が上がるにつれて、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心が強くなる。自分を高め、人は誰でも人間らしいよさをもっていることを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていこうとする態度が次第に育ってくる。

指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。

さらに、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

22 よりよく生きる喜び

中学校の内容項目

内容項目
(道徳的価値)

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。

道徳的価値



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

② 内容項目の概要や指導の要点を確認する

ねらいとする道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、**内容項目の概要**や**指導の要点**を読みましょう。



人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。

(小学校) [よりよく生きる喜び]

[第5学年及び第6学年] よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。

(1) 内容項目の概要

誰でも、自分に自信がもてなかったり、劣等感に悩んだり、誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。欠点や弱点がない人間はいない。ありのままの人間は、決して完全なものではない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。自分を律することができず、つついちゃけてしまうことがある。してはいけないと知りつつ、意地悪なことをしてしまうこともある。自分の利益を最優先にして、他人の不利益を無視して行動してしまうこともある。人間の存在自体、「人間はひとくきの葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。」というパスカルの言葉のとおり、

内容項目の概要

道徳的価値について解説が!

気高く生きようとする心とは、...

の生きる喜びとは、自己満足ではなく、人間としての誇りや深い人間愛でもあり、崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びでもある。

(2) 指導の要点

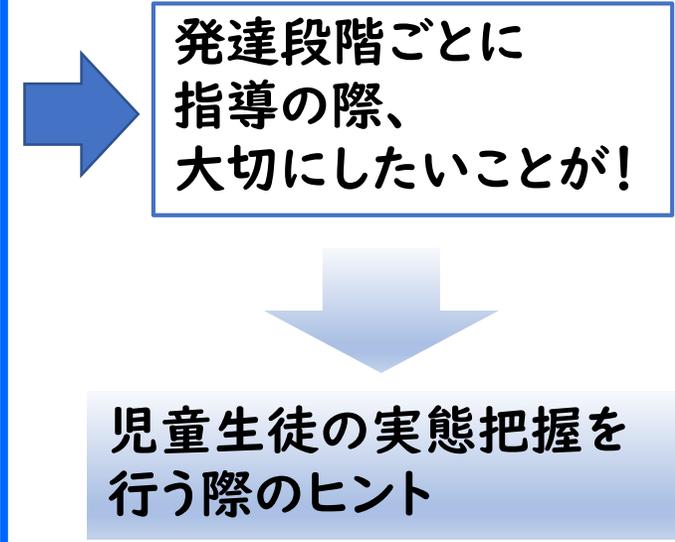
指導の要点

小学校の段階では、高学年や低学年の区別が置かれていない。そのため、近隣の小学校や中学校との連携を図り、発達の段階に応じた指導内容と工夫について工夫を重ねることが必要である。自分を高め、身近な仲間とよい関係を築き、人間としての強さや気高さを身に付けて生きようとする項目であり、いじめの防止等にもつながる内容項目である。

中学校の段階では、入学して間もない時期には、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもつことを理解することができるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてず、劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、うらやましく思ったりすることもある。学年が上がるにつれて、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心が強くなる。自分を含め、人は誰でも人間らしいよさをもっていることを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていこうとする態度が次第に育ってくる。

指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。

さらに、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。



1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

③ 児童生徒の実態をもとに本時で考えさせたいことを決める

指導の要点を確認しながら、ねらいとする道徳的価値についてこれまでどのような指導を行ってきたか、その結果としての児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいことを決めましょう。



©2010熊本県くまモン

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

■指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないことに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。

さらに、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

■指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないことに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。

さらに、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

■指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないことに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調し、それと自分と気高さを比べ、自分より劣ることなく、自分より強くなる生き方に近付けること、自分より優れるようになる必要がある。

こんなことを
考えさせたい!

こんなことに
気付かせたい!

さらに、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

指導の要点

指導の要点から抜粋

■指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないことに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けさせるように。

こんなことを
考えさせたい!

こんなことに
気付かせたい!

さらに、人々の誇りや気高さについて十分理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

■指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないことに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。

さらに、こんなことを考えさせたい！
弱さについて、こんなことに気付かせたい！
気高い生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用

こんなことを
考えさせたい

こんなことに
気付かせたい

中学校

道徳
私たちの



教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える

① 教材を吟味する

指導の意図、児童生徒の実態をもとに、教材のどの場面を取り上げて話し合うのかを考えます。

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



Plan

教材を吟味し

授業のねらいと展開を考える

② 本時のねらいを決める

教材吟味で話し合いたいと考えた場面が
ねらいにつながります。

(〇〇の気持ちを話し合う) 学習を通して

(〇〇に気づき、□□しようとする)

判断力・心情・実践意欲・態度を育てる

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える

③ 中心的な発問から考える

教材文の考えさせたい部分(ねらいの学習活動の部分)を中心的な発問にするとよいでしょう。

1時間の授業の展開を考える際は、「導入」からではなく「展開」の中心的な発問から考えます。

演習Ⅰ「道徳科の授業づくり」

3 教材を使って中心発問づくりまでの演習（25分）

授業づくりステップシート

内容項目
(道徳的価値)

内容項目, 道徳的価値を学習指導要領解説で確認

児童生徒
の実態

- ① 道徳的価値に関する児童生徒の実態は? (指導の要点を参考に)
- ② この授業でこんなことを考えてほしい, こんなことに気付いてほしい

教材の
活用

教材を吟味
・考えさせたいところに線を引きながら ・どのように活用し, どのような学習を行うのか考えながら

ねらい

() 学習(活動)を通して
() 判断力・心情・実践意欲・態度を育てる

中心的な発問

内容項目

(道徳的価値)



©2010熊本県くまモン

内容項目，道徳的価値を学習指導要領解説で確認

例 内容項目：人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。

道徳的価値：○自らの弱さや醜さを克服する強さ
○気高く生きようとする心
○人間として生きることへの喜び

授業づくりステップシート

児童生徒の実態

- ・間違えたり失敗したら恥ずかしい(でも嘘ついたり、ごまかしたり…)
- ・誇りある生き方とは?(信念を貫く、自分が納得できる生き方…)

①道徳的価値に関する児童生徒の実態は？(指導の要点を参考に)

例

- ・自分も含め、誰でも弱い心や醜い心をもっていることは共有できているな…
- ・自分自身の弱さや醜さについては認識しているが、その弱さや醜さとしっかり向き合って、自分自身に打ち勝つことが、よりよい生き方や誇りある生き方につながるととらえている生徒は少ないな…

②この授業でこんなことを考えてほしい, こんなことに気付いてほしい

例

- ・これまでの失敗や過ちなどと向き合い、「謝ったから解決した」や「あの件はもう終わったこと」としてしまわず、その後の生活で反省の姿を示していくことや自分の課題を克服していくことが、相手や自分を大切にすることにつながることに気付かせ、人として誇りある生き方にしていこうとする態度を育みたい。

授業づくりステップシート

教材の活用

教材を吟味

- ・考えさせたいところに線を引ながら・・・
- ・どのように活用し、どのような学習を行うのか考えながら・・・

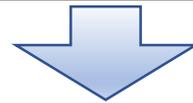
ねらい

(よりよく生きるとはどのようなことなのか考える) 活動を通して

例

(自分の弱さや醜さと向き合い、ともによりよく生きていこうとする)
態度を育てる

例



中心的な発問 さだまさしさんは、どんな思いで涙が止まらなかったのだろうか

(補助的な発問)

例

さだまさしさんが、この曲で伝えたいことは何だろうか

板書例

これからよりよく生きるために

これから自分が
よりよく生きるために

つらいけど、認めるやさしさ

- ネームプレート
- ネームプレート
- ネームプレート

過ちから、自分にできること償う

償うという気持ち
(許されないかもしれないが)

自分の行いに責任をもつこと

- ネームプレート
- ネームプレート
- ネームプレート

過ちを受け入れて償うこと

犯した過ちをどう次にいかすか

- ネームプレート
- ネームプレート
- ネームプレート
- ネームプレート
- ネームプレート

過ちは取り戻せないが、
その後の行動が大切

- ネームプレート
- ネームプレート
- ネームプレート

自分の過ちを自覚することの大切さ

- ネームプレート

さだまさしさんがこの曲で
伝えたいことは何だろうか

涙がとまらなくてとまらなくて…



償い



さだまさし

学習課題

よりよく生きるために

支え合つて協力する 楽しく生きる
ルールを守る

ゆうちゃん

哀しい過ち 死亡事故

奥さん

「人殺しあんたを許さない」

毎月仕送りを

どんな気持ちで

かなしい・つらい
許せない

ゆうちゃんの
思いが伝わった

7年後、ゆうちゃんへ手紙を

ゆうちゃんの
気持ちを受けとる

自分のために使ってほしい
十分気持ちか伝わった

償いさびしい
それでも
許せない
でも自分にできることを
自分ができる最大限
奥さんやその家族のために
は送りには目的じゃない
この「償い」がくちくち
人のせいにならぬ

涙がとまらなくてとまらなくて 曲を創作

さだまさしさんがこの曲で伝えたいことは何だろうか

犯したあやまちを
どうか次にいかすか

過ちを受け入れて
償うこと

自分が行いに責任を
とること

償うという気持ち
(許せないながらもしれない)

過ちが、自分にできる
こととして償う
やっつけたことはとらぬ
その後の同じを見て行動する

これから自分がよりよく生きるために

これまでの自分を振り返り、感じたことを自分に

学びに向かう

1.自ら取り組む力
2.見通す力
3.他と協力する力
4.伝える力



授業を充実させるために

道徳科授業づくり手順のポイント

1	学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の 内容項目のページで道徳的価値の確認 をします。
2	道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、 内容項目の概要や指導の要点を確認 します。
3	道徳的価値について、 児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいこと を決めます。
4	教材を読みながら、 本時で考えさせたいことが教材のどこに含まれるか を考えます（ 教材吟味 ）。
5	本時のねらいを決定 します。
6	中心的な発問 を考えます。
7	中心的な発問の 前後の発問 を考えます。
8	学習活動 （導入、話し合い、書く活動、表現活動、板書、ICTの活用等）の工夫について考えます。
9	ねらいをもとに 評価の視点 を考えます。



授業の準備はできましたか。
子供たちと道徳科の授業を楽しみましょう。

児童生徒とともに考え、楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上 リーフレット

授業づくりのRPDCA

平成 27 年 3 月に小学校及び中学校の学習指導要領等が改正され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」と位置付けられました。各学校においては、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育の目標に向け、様々な工夫を行いながら道徳科の授業に取り組みされていると思います。しかしながらその一方で、「道徳科の授業づくりは難しい。」「どうやって発問をつくったらよいのだろうか。』との声も多く聞かれます。

そこで、県教育委員会では、「考え、議論する道徳」の実現に向けて、教員一人一人の授業力向上と校内研修等の充実を目指すため本手引書を作成しました。

本手引書では、道徳科授業づくりの基本的な考え方や参考となる学習活動例等を紹介しています。この手引書で紹介する学習活動例等はいずれも一つの工夫の例であり、特定の指導方法を「型」として取り入れることを目指すものではありません。各学校においては、創意工夫を生かした授業づくりを進めるために、指導方法を工夫する上で参考にしたり、校内研修用の資料として使用したりするなど、児童生徒や学校、地域の実態に応じて御活用ください。各学校で行われる道徳科の授業が、児童生徒とともに考え、議論し、楽しむ授業となることを期待しています。

熊本県教育委員会



※道徳科授業力向上手引書を
熊本県教育委員会ホームページに掲載しております。



©2010熊本県くまモン

令和 5 年 3 月 熊本県教育委員会



児童生徒とともに考え、
楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上 手引書

授業づくりのRPDCA

令和 5 年 3 月 熊本県教育委員会



©2010熊本県くまモン

道徳教育用郷土資料「熊本への心」授業づくり委員会

平成30年度、31年度（令和元年度）から全面実施となった「特別の教科道徳」に対応した、学習構想案の作成・HP掲載を通して、教員の更なる授業力向上及び授業改善を図り、児童生徒の道徳性の育成につなげる。



令和6年度までに
小学校低学年 3本
小学校中学年 5本
小学校高学年 4本
中学校 4本
合計16本を掲載

八代教育事務所HP

道徳教育関係（掲載予定一覧）

- 授業づくりステップシート
- R6パワーアップ地区別研修会スライド
- R7パワーアップ地区別研修会スライド
- 「さよならの写真」（中学校熊本への心）構想案等
- 「〇〇〇〇〇〇」（小学校熊本への心）構想案集



緊急・重要なお知らせ

2025年5月15日更新
【5月21日実施】県ホームページメンテナンスのお知らせ
2025年5月14日更新
米国自動車関税措置等関連情報
2024年1月26日更新
通行規制情報（防災情報くまもとへリンク）

[RSS](#) [一覧へ](#)

組織からさがす

フォトニュース

熊本県の主な施策

教育関連施設

このページを見ている人は
こんなページも見ています

- 道徳教育
- 教育委員会 検索結果
- 令和8年度熊本県公立学校教員採用選考審査中間志願状況について (R7.4.24公表)
- 令和7年度 異動一覧
- くまもと新時代教育大綱を策定しました

AI（人工知能）は
こんなページをおすすめします

災害安全（防災）に関する成果報告書及び計画例等について

【令和7年度】「全日本中学生水泳の作

道徳教育用郷土資料「熊本への心」学習構想案集

印刷 文字を大きくして印刷 ページ番号: 0197628 更新日: 2025年2月28日更新

熊本県教育委員会では、「熊本への心」を活用した道徳科の授業充実や「熊本への心」の更なる活用・促進につなげるため、各管内の「熊本への心」授業づくり委員の方々にご協力いただき、現行の学習指導要領に基づいた「熊本への心」学習構想案を作成しました。

掲載しました学習構想案は、授業実践に基づいた例であり、学習シート等も掲載しております。今後の授業づくりの参考にさせていただければと思います。

※掲載しております学習構想案については、特に決まった様式を設けておりません。

道徳教育用郷土資料「熊本への心」学習構想案例等

学年	教材名	作成年度
小学校 低学年	03 オトケサボフ (PDFファイル:755KB)	R6
小学校 低学年	04 きゅうけい先生 (PDFファイル:824KB)	R5
小学校 低学年	15 「めごいにゃあどん」ときつね (PDFファイル:1.67MB)	R5
小学校 中学年	08 森の都 (PDFファイル:629KB)	R5
小学校 中学年	10 布田保之助の心 (PDFファイル:673KB)	R5
小学校 中学年	14 ふるさとをえがく (PDFファイル:624KB)	R5
小学校 中学年	18 千代の話 (PDFファイル:377KB)	R5
小学校 中学年	19 白魚の来る川 (PDFファイル:615KB)	R6
小学校 高学年	02 人生の金メダル (PDFファイル:558KB)	R6
小学校 高学年	03 金色の海 (PDFファイル:750KB)	R5
小学校 高学年	08 今、君の瞳はかがやいているか (PDFファイル:520KB)	R6
小学校 高学年	19 九百九十九段め (PDFファイル:803KB)	R5
中学校	04 大観峰に立つ (PDFファイル:933KB)	R5
中学校	09 イカナゴの海 (PDFファイル:698KB)	R6
中学校	11 俳優 笠智衆 (PDFファイル:885KB)	R6
中学校	20 さよならの写真 (PDFファイル:575KB)	R5